

代表社員
小川 英幸



合同会社長目

京都市下京区玉津島町294
☎ 070-1040-1810
<https://www.chomoku.info/>

プロフィール

2017年6月に合同会社長目を創業。データ分析・AIモデル作成から始まり、生成AI市場の勃興により自社アプリ開発・企業の生成AI導入サポート事業に移行。書籍執筆のコンテンツ作成力で経営者向け生成AI活用入門コースが好評。経産省認定の情報処理支援機関。日経BP「Pythonデータ分析ハンズオンセミナー」等を執筆。趣味は筋トレ。人材不足に生成AIを活用し、企業の生産性向上に取り組んでいる。

プラン名

生成AIを使った、
あなた専用のプログラミング学習アプリ



教室の風景
(シェアオフィスCOVO)

第5回 チャレンジ部門 優秀賞 受賞

生成AIを使った生産性向上で、 京都企業の人手不足解消を目指す！

「生成AIの活用でデジタル技術への遅れを克服、日本の生産性を高める！」というのが、今回のプランの核となる考えです。

現在47歳の私ですが、プログラミング歴は10年ほど。前職の通勤時に、電車の中でパソコンと格闘しながら独学で習得し、最終的にはプログラミング書籍を執筆するまで熱中しました。この過程で、現代のデジタル技術がもたらす能力拡張の素晴らしさを実感しました。技術発展と能力拡張の利点を多くの人に伝え、日本の生産性を高めることができれば、私も社会の役に立つことができる、そんな思いでビジネスを立ち上げました。

まず着手したのは、未来を担う子どもたちが生成AIを使いこなせるようになるための、小中学生向け学習アプリの開発です。同時に、社会人向けの生産性向上コンテンツも開発しました。子どもたちのAIへの関心はまだまだ高いとは言えませんが、企業経営者の方々からは生成AI導入に関して多数お問い合わせをいただき、企業ニーズに合わせたさまざまなAIコン

テンツを提供しています。

経営者の皆様は、30代から70代と幅広いですが、生成AIへの関心が非常に高く、学び始めると、次々と業務に活用するアイデアが生まれる様子には驚かされます。この経験から、「デジタル化の遅れによる中小企業の生産性低迷」という課題の解決には、経営層が生成AIを理解し活用を促進することこそが重要だと強く実感しています。

AIが雇用を奪うと不安視する声もありますが、AIの活用は業務効率化だけでなく、新たな価値創造の可能性も秘めています。IMFのレポート「AIのマクロ経済学」でも、AIを使いこなす人が増えるほど、生産性が高く、格差の少ない社会が実現できるとされています。この理想の社会を実現するためには、生成AIを活用できる人材の育成が不可欠だと私は考えています。ぜひこの機会に、皆様もAIへの挑戦を始めてみませんか。

👑
ビジネスプランの詳細はこちら



イベントの様子
(竹田千蔵商店)

経営者に生成AIの有用性を伝える場として、異業種交流会への参加機会を提供。変革に前向きな事業者を中心にアプローチするほか、広報支援で同社の取り組みを広く発信します。

京商の支援

